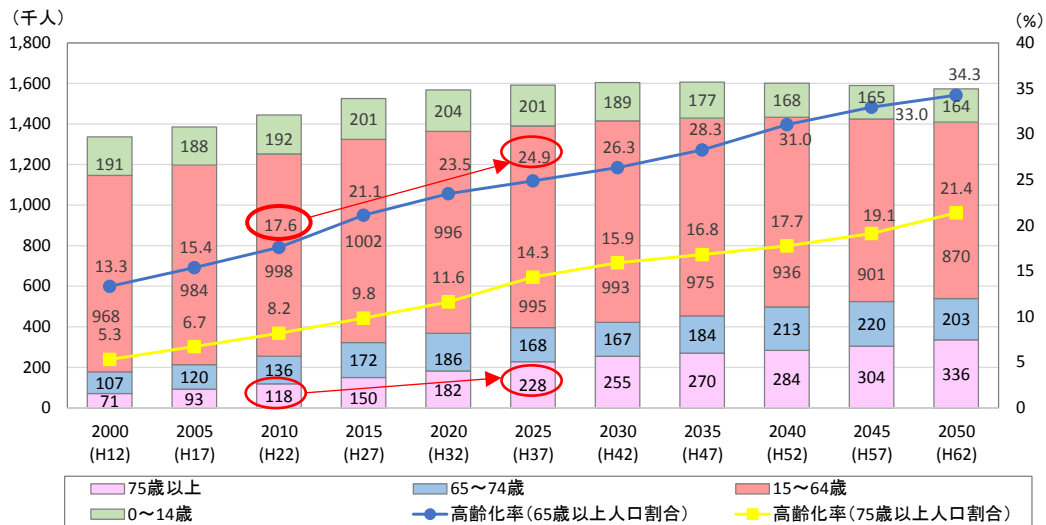


地域コミュニティをめぐる現状等について

1. 人口構成等

- ・福岡市の人口は150万人を超え、現在も増加している。
- ・福岡市は、全国で人口が減少し高齢化が進展する中、人口増加数と人口増加率、若者率が政令指定都市で第一位であるが、校区ごとに見れば、大きく高齢化が進んでいるところもある。
- ・超高齢社会の到来や東日本大震災などの影響により、地域コミュニティの力が再認識され、見守り、支え合いの場としての期待が高まっている。
- ・地域においても、見守りや支え合いなどが大きな課題となっており、現在の価値観やライフスタイルにあわせた地域の絆づくりが求められている。

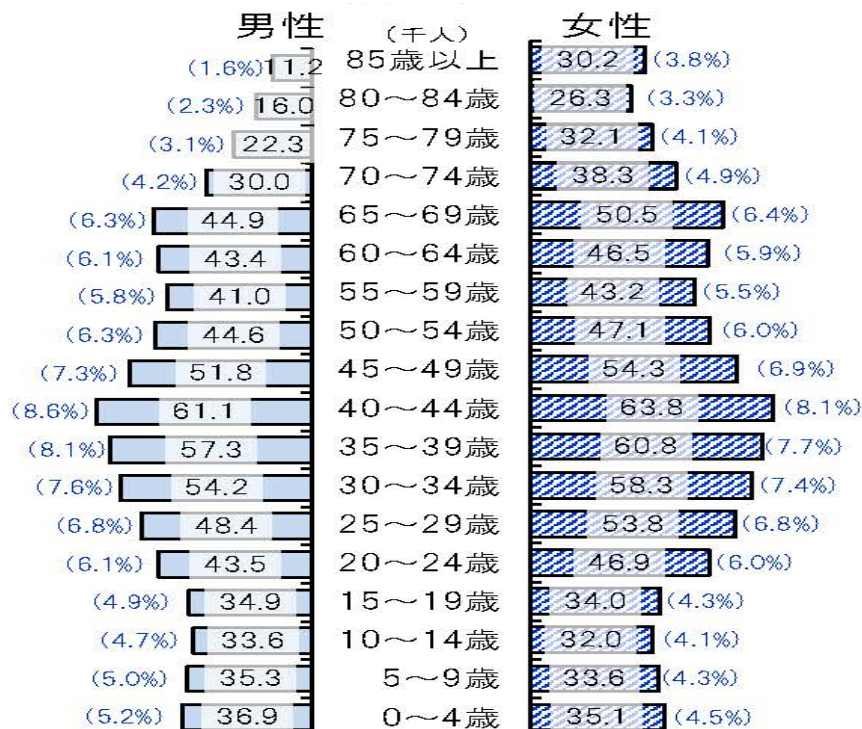
■ 年齢区分別人口と高齢化率の推移・将来推計



資料：実績値は国勢調査

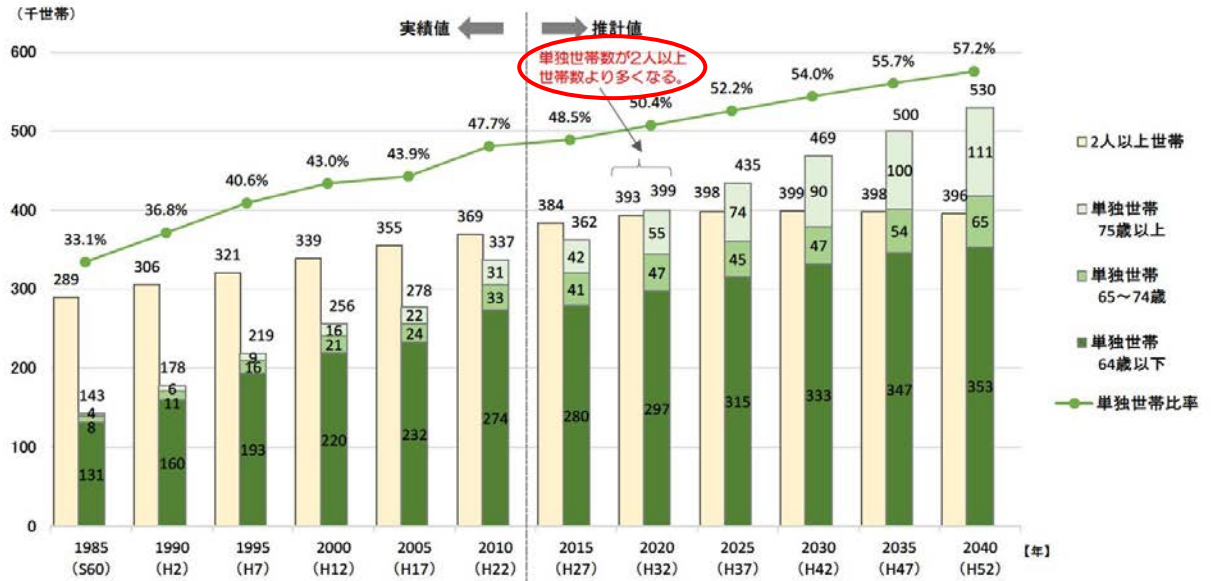
推計値は福岡市の将来人口推計（平成24年3月推計）福岡市総務企画局

■ 男女・年齢区分別人口ピラミッド



出典：福岡市住民基本台帳（平成27年9月末）

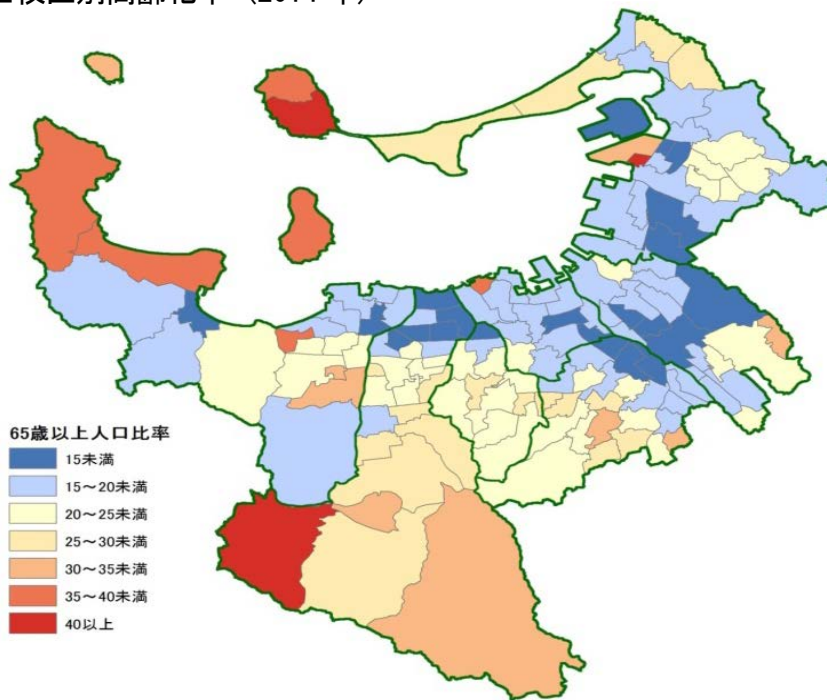
■世帯構成の推移



資料：実績値は国勢調査

推計値は福岡市の将来人口推計（平成24年3月推計）福岡市総務企画局

■校区別高齢化率（2014年）



<校区別高齢化率 上位10校区>

小学校区	区	校区人口		
		高齢化率 (%)	65歳以上人口(人)	総人口(人)
1	曲渕 早良	46.01%	75	163
2	城浜 東	43.35%	1,545	3,564
3	志賀島 東	41.93%	652	1,555
4	福浜 中央	38.58%	2,016	5,225
5	能古 西	38.33%	271	707
6	今津 西	36.60%	1,097	2,997
7	西陵 西	36.52%	1,977	5,414
8	北崎 西	35.20%	882	2,506
9	勝馬 東	35.18%	89	253
10	壱岐南 西	33.07%	3,447	10,423

<校区別高齢化率 下位10校区>

小学校区	区	校区人口		
		高齢化率 (%)	65歳以上人口(人)	総人口(人)
1	照葉 東	4.20%	243	5,785
2	東住吉 博多	11.98%	1,090	9,102
3	千早 東	12.35%	1,288	10,428
4	松島 東	12.66%	2,251	17,777
5	姪浜 西	12.71%	1,856	14,600
6	高取 早良	13.25%	2,162	16,313
7	原北 早良	13.42%	1,058	7,886
8	玄洋 西	13.42%	1,901	14,166
9	西新 早良	13.43%	2,196	16,346
10	高宮 中央	13.64%	1,648	12,083

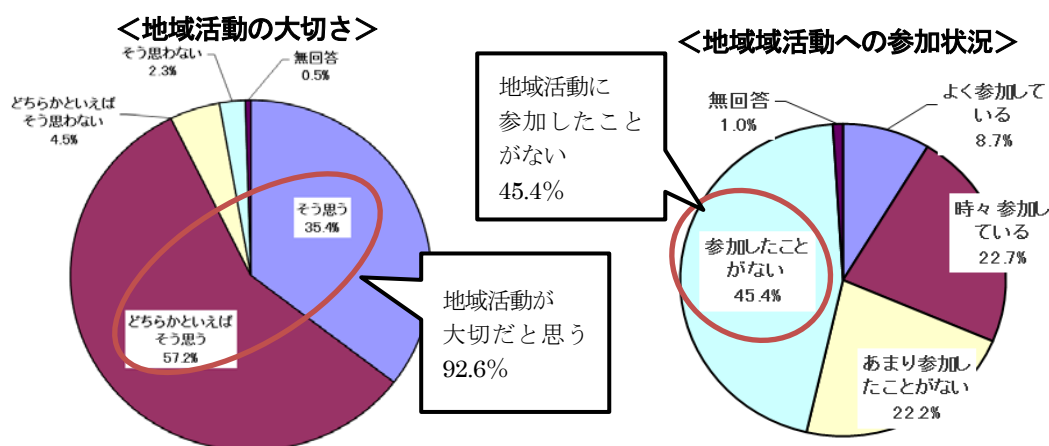
出典：住民基本台帳（日本人人口：平成26年9月現在）[福岡市]

■人口区分ごとの校区数

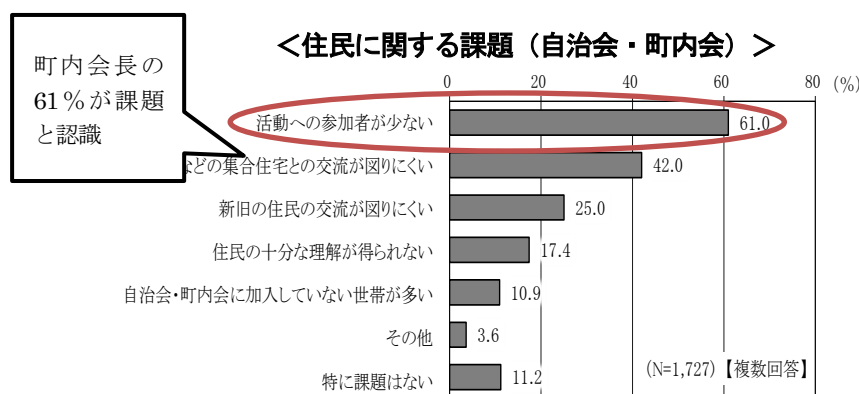
人口区分	～2,000人	2,001人 ～5,000人	5,001人 ～10,000人	10,001人 ～15,000人	15,001人～
校区・地区数	6	10	59	55	19

2. 地域コミュニティへの関心等

- ・市民アンケートによると、9割の市民が地域活動や自治会・町内会の重要性を認識しているにもかかわらず、7割の市民が地域活動に参加したことがない。
- ・地域においては、夏祭りや運動会、地域の歴史資源を生かしたイベントなど、様々な楽しい活動が行われているが、学校や企業など、まだ十分に活用されていない資源もある。
- ・地域の重要性を認識している市民が地域活動に参加するきっかけとなるよう、地域の魅力を知り、創り、発信する取組が求められています。

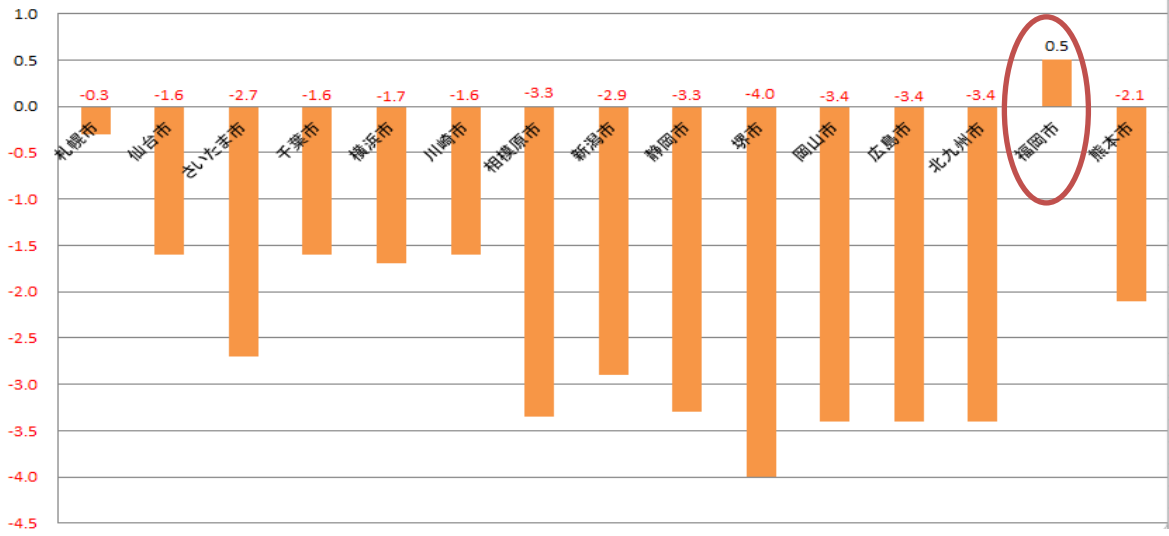


資料：平成26年度市政アンケート調査報告書



資料：平成26年度自治会・町内会長アンケート結果

政令指定都市における自治会加入率の過去4年間の増減

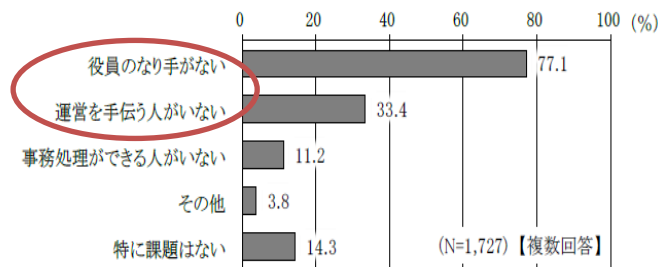


注) ホームページ等に自治会加入率が掲載されている 15 都市を集計 (仙台市は過去 3 年間)

3. 自治協議会の状況

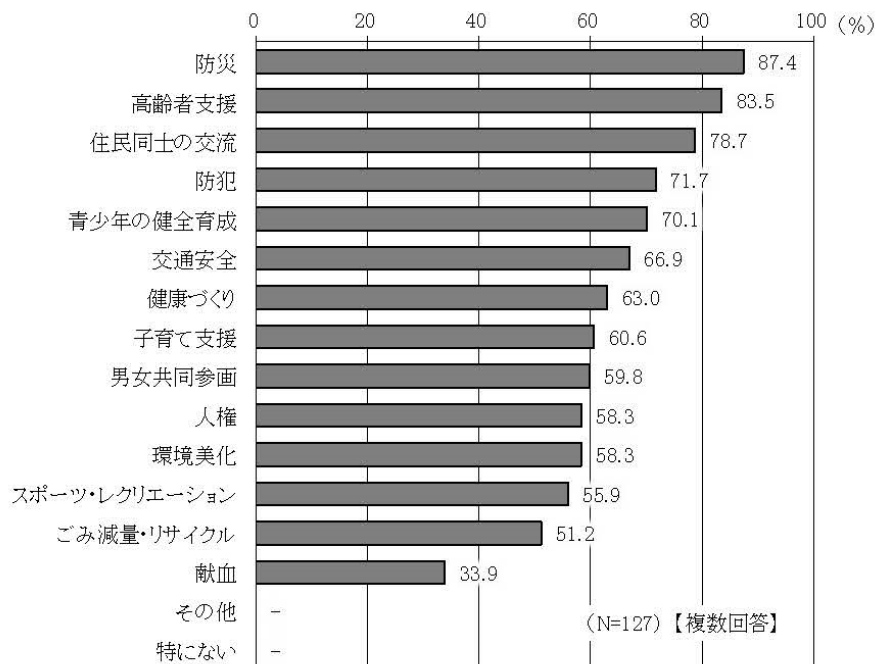
- ・市内149の小学校区・地区の全てに自治協議会が設立されて自治活動が行われているが、地域の特徴（人口数や単身世帯率、高齢化率など）は、校区によって大きく異なる。
- ・自治協議会は、校区内で組織されている自治会・町内会の概ね8割以上の団体のほか、交通安全、体育振興、男女共同参画、青少年育成、ごみ減量・リサイクル、献血推進、衛生、自主防災の8つの団体の加入を必須としている。
- ・構成メンバーとして、社会福祉協議会や商店街連合会、民生委員・児童委員協議会、小中学校PTAなどが加入している自治協議会もある。
- ・地域における最大の課題は担い手不足である。
- ・新たな人材が生まれず担い手が固定化し、固定化に伴い負担が大きくなり、次の担い手が生まれにくい、という悪循環に陥っている。
- ・近年、地域課題を解決するビジネスに関心が高まっている
- ・地域においても、ビジネスの力で地域をよくしていくことに関心が向き始めており、地域の新たな担い手として期待が高まっている。
- ・地域の担い手は地域づくりの基盤であり、継続的に新たな担い手に引き継いでいけるしくみが求められている。

<運営や活動にあたっての課題>



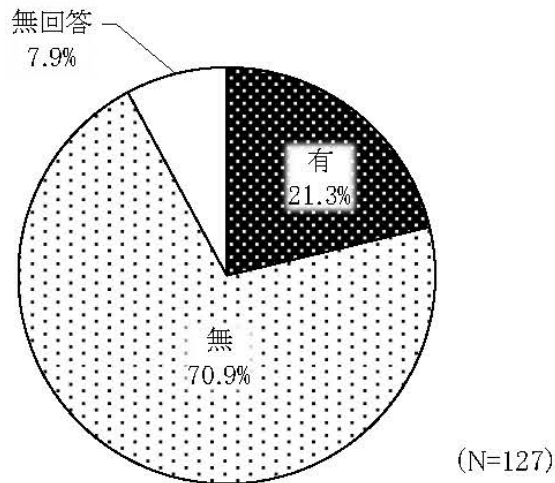
資料：平成26年度自治会・町内会長アンケート結果

<今後取り組みたい分野>



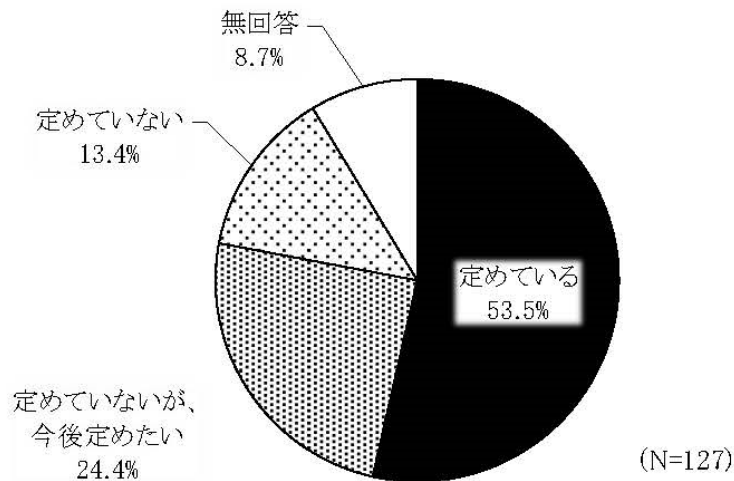
資料：平成26年度自治会・町内会長アンケート結果

＜民間事業者や商店街、NPO 等との連携した事業・取り組み＞

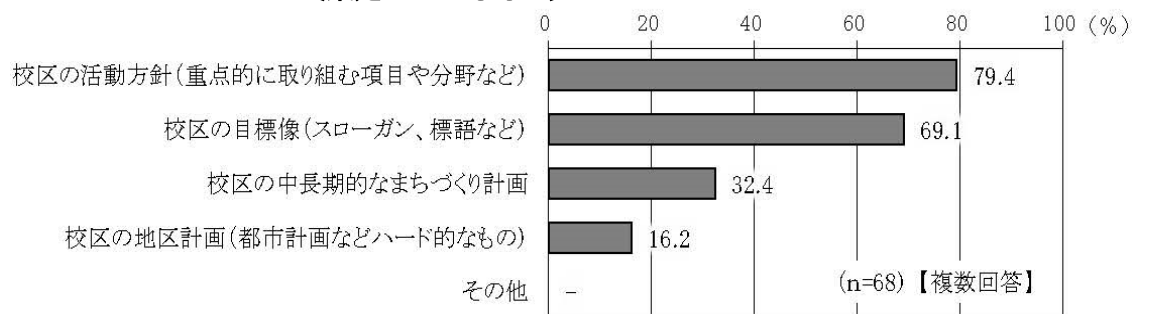


資料：平成 26 年度自治会・町内会長アンケート結果

＜目標像や活動方針、まちづくり計画の策定状況＞



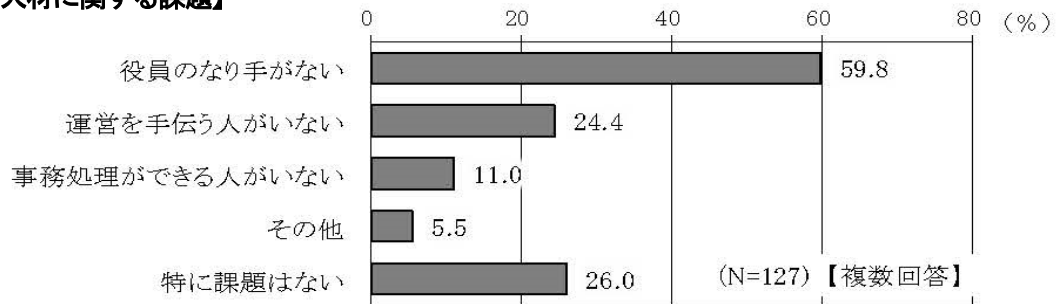
【策定しているもの】



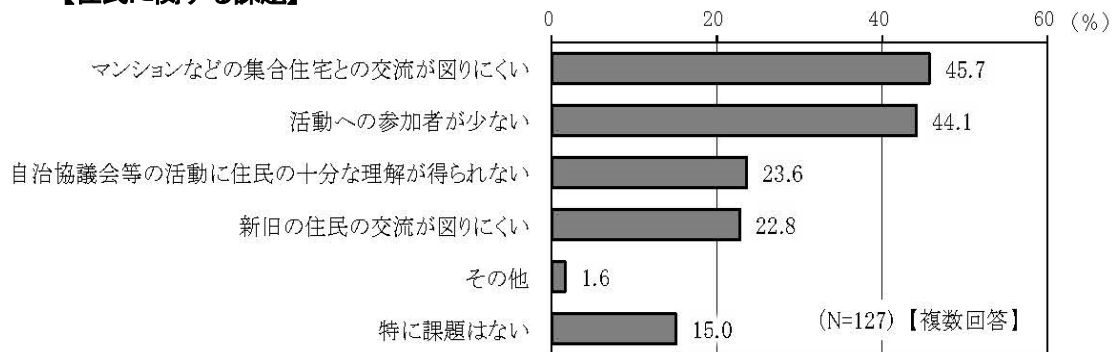
資料：平成 26 年度自治会・町内会長アンケート結果

<運営や活動にあたっての課題>

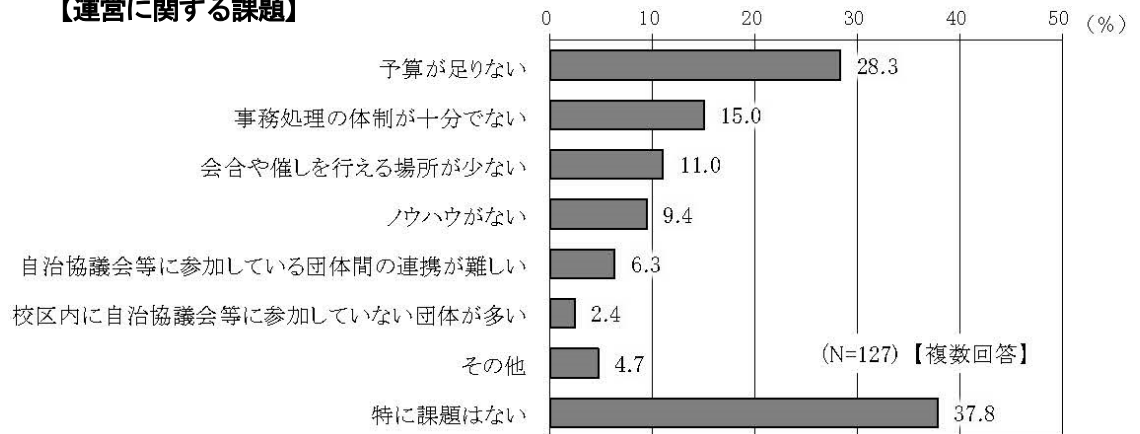
【人材に関する課題】



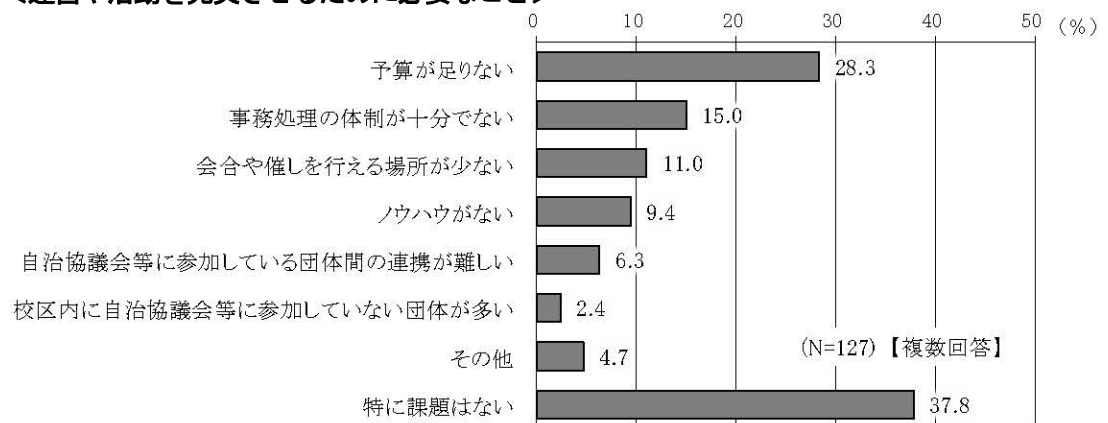
【住民に関する課題】



【運営に関する課題】



<運営や活動を充実させるために必要なこと>



資料：平成26年度自治会・町内会長アンケート結果

平成 27 年 度

福岡市基本計画に係る実施状況の報告

平成 28 年 9 月

福 岡 市

分野別目標総括シート

分野別目標2 さまざまな支え合いとつながりができている

<めざす姿>

○市民が身近な地域の課題やまちづくりに主体的に関わっており、公民館などの地域コミュニティ活動の場が有効に活用され、多くの市民によるさまざまな活動が行われています。
 ○交流と対話により、人と人とのつながりが生まれ、さまざまな人々が、共に支え合いながら元気に安心して暮らしています。
 ○地域コミュニティ、NPO、ボランティア、企業、行政などさまざまな主体が、それぞれの知恵やノウハウなどを持ち寄って共働しており、その相乗効果によってさまざまな社会課題を解決しています。

施策		成果指標		重点事業 ※網かけは再掲	
名称	評価	指標項目	指標の達成状況	名称	進捗状況
施策2-1 支え合いの基盤となる地域コミュニティの活性化	○:概ね順調	地域活動への参加率(地域活動に参加したことがある市民の割合)	C	活力あるまちづくり支援事業	a
				コミュニティ活動市民参加促進事業	a
				自治協議会の運営基盤強化に向けた支援事業(終7)	—
				公民館地域人材発掘・育成支援事業	b
施策2-2 公民館などを活用した活動の場づくり	△:やや遅れている	公民館の利用率(年に1~2回以上公民館を利用した市民の割合)	C	公民館改築	a
				地域・公民館の情報発信の強化	b
				住民の活動の場づくりの充実	b
				公民館こころ輝くまちふくおか推進事業<再掲1-8>	b
				香椎副都心公共施設整備(市民センター)	a
				香椎副都心公共施設整備(音楽・演劇練習場)	a
				地域交流センター検討(早良区)	b
施策2-3 支え合いや助け合いによる地域福祉の推進	○:概ね順調	地域での支え合いにより、子育て家庭や高齢者が暮らしやすいまちだと感じる市民の割合	B	地域での支え合い活動支援	b
				共助の仕組みづくり(超高齢社会に対応するための施策の検討)	d
				見守り推進プロジェクト	a
				地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業(終7)	—
				留守家庭子ども会事業①(留守家庭子ども会推進事業)<再掲1-7>	a
				留守家庭子ども会事業②(留守家庭子ども会(新築・改築))<再掲1-7>	a
				障がい児の療育の充実①(特別支援学校放課後等支援事業)<再掲1-7>	a
				障がい児の療育の充実②(発達障がい児放課後等支援事業)<再掲1-7>	a
施策2-4 NPO、ボランティア活動の活性化	○:概ね順調	NPO・ボランティア活動などへの参加率(過去5年間にNPOやボランティア活動などに参加したことがある市民の割合) 市内に事務所を置くNPO法人数	B	NPOと行政による共働事業	c
			B		
施策2-5 ソーシャルビジネスなど多様な手法やつながりによる社会課題解決の推進	○:概ね順調	市の施策によるソーシャルビジネス起業家数	B	商店街の振興(商店街活カアップ事業、地域との共生を目指す元気商店街応援事業)<再掲6-3>	b

■ 平成 27 年度の事業実施状況【概要】

I 魅力づくり

《課題》

- コミュニティ意識の希薄化
- 幅広い多くの住民の参加
- 地域の実情に応じた取組



《取組の方向性》

地域の魅力や特性を地域住民が共有し、幅広い多くの地域住民の参画により、目標を共有し、楽しいまちづくりに取り組む。

- (1) 自分の地域やコミュニティ活動への関心を高める
 - ア 「自治協議会サミット」の開催
 - イ 「コミュニティ通信」を通じた地域情報の発信
 - ウ 「ふくおか市政だより」への記事掲載
 - エ 市ホームページの充実
 - オ コミュニティが行う ICT を活用した広報活動等の支援
 - カ 「地域デビュー応援事業」による自治会・町内会への支援【再掲】
- (2) 幅広い多くの住民の参加
 - ア ボランティア体験事業の実施
 - イ ボランティアに興味がある市民への情報提供
 - ウ 「地域デビュー応援事業」による自治会・町内会への支援【再掲】
 - エ 公民館事業を通じた人事発掘・育成【再掲】
- (3) 校区・地区の実情・特色に応じたコミュニティ活動や運営
 - ア 「活力あるまちづくり支援事業補助金」による支援
 - イ 「自治協議会サミット」の開催【再掲】
 - ウ 校区ビジョン策定支援〔モデル事業〕※資料 4

II 絆づくり

《課題》

- 顔の見える関係づくり
- 集合住宅入居者の地域との関わり
- 地域の各種団体等の連携強化



《取組の方向性》

自治会・町内会など小さなコミュニティを大切に、見守りや防災に繋がるような、住民相互の顔の見える関係づくりに取り組む。

- (1) 顔の見える関係づくり
 - ア 「地域デビュー応援事業」による自治会・町内会への支援
 - イ 自治協議会と連携して実施する等による自治会・町内会向けの研修会等の開催
 - ウ 自治会・町内会の法人認可（地縁団体認可）
 - エ 市民向けPRチラシの作成・配布
 - オ 「自治会活動ハンドブック」の配布
 - カ 住宅事業者との連携による集合住宅入居者の自治会・町内会加入の促進【再掲】
- (2) 集合住宅入居者の地域との関わり
 - ア 住宅事業者との連携による集合住宅入居者の自治会・町内会加入の促進
 - イ 市民向けPRチラシの配布【再掲】
- (3) 地域の各種団体等の連携強化
 - ア 「活力あるまちづくり支援事業補助金」による支援【再掲】

Ⅲ 担い手づくり

《課題》

- 地域活動への参加者が少ない
- 地域役員等の担い手不足
- 地域活動への負担感



《取組の方向性》

担い手の負担を軽減するとともに、人材の発掘・育成、企業や事業者、NPO など様々な主体の参画を図ることで担い手づくりに取り組む。

(1) 地域活動への参加者を増やす

- ア 自治協議会活動の活性化に向けた研修会等の開催や勉強会への協力
- イ 自治協議会等会長への感謝状の贈呈
- ウ 地域デザインの学校の実施 **※資料5**
- エ 「自治活動ハンドブック」の配布【再掲】
- オ 「地域デビュー応援事業」による自治会・町内会への支援【再掲】
- カ 自治協議会と連携して実施する等による自治会・町内会向けの研修会等の開催【再掲】

(2) 地域役員等の担い手づくり

- ア コミュニティへの協力依頼の整理・削減
- イ 公民館事業を通じた人材発掘・育成【再掲】
- ウ 自治協議会と連携して実施する等による自治会・町内会向けの研修会等の開催【再掲】
- エ 自治協議会活動の活性化に向けた研修会等の開催や勉強会への協力【再掲】
- オ 「自治協議会サミット」の開催【再掲】
- カ 自治協議会等会長への感謝状の贈呈【再掲】
- キ 「活力あるまちづくり支援事業補助金」による支援【再掲】

(3) 新たな担い手としての企業等の参加の促進

- ア “ふくおか” 地域の絆応援団の登録・公表【新規】
- イ セミナー開催による連携の促進【新規】

Ⅳ 全体を通じた取組み

《具体的な取組み》

(1) 公民館の取組み

- ア 公民館事業を通じた人材発掘・育成
- イ 自治協議会等との連携による効果的・効率的な事業の推進
- ウ 公民館による自治協議会等のコミュニティ支援の充実
- エ 公民館職員への研修などの実施

(2) 情報通信技術（ICT）の活用促進

- ア コミュニティが行う ICT を活用した広報活動等の支援【再掲】

(3) 市役所のあり方

- ア 校区担当職員による自治協議会等のコミュニティ支援の充実
- イ 校区担当職員への研修の実施
- ウ 職員研修の実施
- エ 職員向け手引きの作成
- オ 市民向けPRチラシの配布【再掲】
- カ 「コミュニティ通信」を通じた地域情報の発信【再掲】

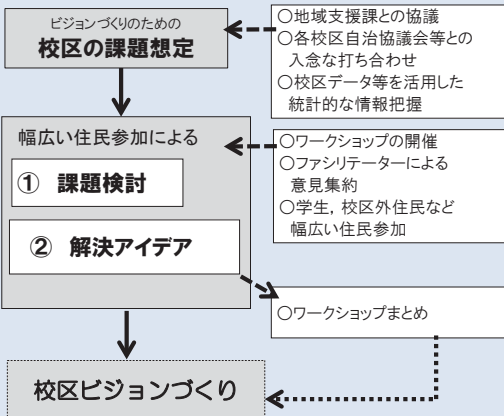
校区の目標や将来像などの策定について ～校区ビジョン策定支援～

(目的)

- ・ 地域の目標共有と特性を生かしたまちづくりの推進
- ・ 地域の目標像等を語り合う過程を経ることで、地域への愛着を醸成し、新たな担い手の発掘を図る。

ビジョン策定の流れ

校区課題検討の流れ



<校区ビジョンづくりの特徴>

- ・ 課題抽出や解決アイデア出しは「住民が主役」となっている
- ・ 住民とは、幅広い年代層の校区内住民や、事業所なども含める
- ・ 校区の情報や各種統計データを、課題抽出のための資料として活用する
- ・ 住民等による課題抽出・解決アイデア出しの手法としてワークショップ形式をとる
- ・ ワークショップの進行、誘導は専門家(ファシリテーター)が行う
- ・ 次年度以降自治協議会等の活動として反映

モデル事業の実施状況①

★南区塩原校区

- ・ 転入者が多く、人の入れ替わりが多い校区であり、今後のまちづくりの方向性(ビジョン)を検討
- ・ 校区住民に加え、九州大学や校区内の幼稚園・保育園など校区住民以外にも参加したワークショップを2回開催
- ・ 地域の実情や特色から、校区にある自然や施設などを活用したプロジェクトのアイデアが生まれる。

モデル事業の実施状況②

★城南区堤地区

- ・ 「健康長寿へのチャレンジ」をテーマに高齢者地域支援会議を設置
- ・ 校区住民に加え、福岡大学や校区内の事業所など校区住民以外にも参加したワークショップを2回開催
- ・ 健康長寿延伸のための新しいプロジェクトのアイデアが生まれる。

モデル事業の実施状況③

★早良区小田部校区

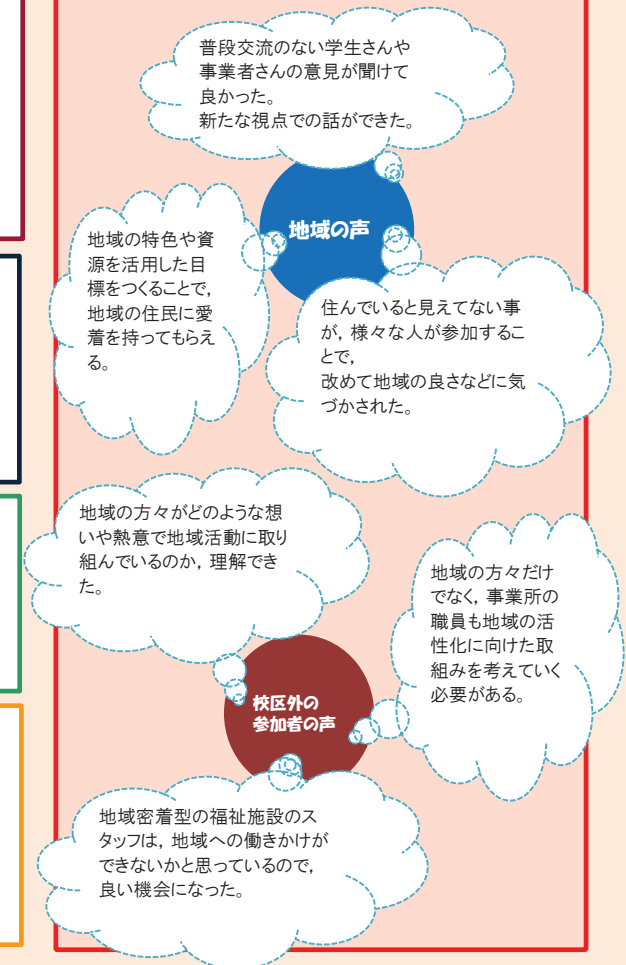
- ・ まちづくりの方向性(ビジョン)を策定するにあたり、校区住民へのヒアリングを通じて、在来野菜を中心に校区の歴史や変遷などをとりまとめ。
- ・ ビジョンづくりに向けた企画書の提案を行った。

モデル事業の実施状況④

★西区今津校区

- ・ 「子どもが増える環境づくり」のために、今後の具体的な取組内容を検討
- ・ 校区住民に加え、九州大学や校区内の福祉施設など校区住民以外にも多数参加したワークショップを2回開催
- ・ 校区にある自然や施設などを活用したプロジェクトのアイデアが生まれる。

ワークショップの参加者等の意見



塩原校区まちづくりビジョン ワークショップのまとめ

取り組みの背景

- ・転入者が多く、人の入れ替わりが多い。
- ・新しい子育て世代と長く住んでいる方とのコミュニケーションが少ない。
- ・校区を4つのブロックに分けて、運動会や避難訓練などで利用している。
- ・校区のスローガンは「優しい笑顔と明るい挨拶」。

取り組みの概要

第1回 ワークショップ

日時：平成 27 年 12 月 21 日（月） 19:00～21:00
 場所：塩原公民館
 参加者数：40 人

第2回 ワークショップ

日時：平成 28 年 2 月 8 日（月） 19:00～21:00
 場所：塩原公民館
 参加者数：33 人



第1回ワークショップ

●グループワーク1：ブロック毎によいところと悪いところを書き出す

塩原校区の特徴として

- ・JR や西鉄の駅に近く、交通の便はいい。
- ・公共施設も多く、日常生活は基本的に便利。
- ・若い世帯の転入が多いが、転出も多い。

●グループワーク2：課題を解決するには？

主な課題として

- ・防災（特に水害）
- ・公園（ゴミ、安全性、利用されていない）
- ・人やコミュニケーションの課題（高齢者、外国人、転出入者が多い、集合住宅、ワンルーム）
- ・九大との交流がない

コミュニケーションの課題

- ・コミュニケーションが少ない
- ・人が集まる場所が少ない
- ・こどもが少ない
- ・高齢者が多い
- ・出入りが激しい
- ・単身者が多い
- ・外国人が多い
- ・集合住宅と戸建てでのコミュニケーションがない
- ・掃除をする人がいない
- ・ワンルームは地域に密着していない
- ・九大生との交流がない

第2回ワークショップ

●グループワーク1：「コミュニケーションがとれると、どんないいことがあるの？」

みんなにとって：災害時の声掛け、防犯、情報の共有、地域への愛着
 孤立がなくなる、生活が楽しくなる（飲み友達）
高齢者にとって：孤独死がなくなる、外出が増える、声掛け気にかける

子ども・親にとって：友達ができる、子育て相談ができる
学生にとって：リサイクル品などがもらえる、力仕事を手伝う
外国人にとって：ゴミ出しや交通のルールがわかる

●グループワーク2：「コミュニケーションを図るための方法を考えよう！」 以下のようなアイデアが得られました。

「ツール」づくり

- ・ルールブック（外国人の方向け、ゴミ出しポスター）
- ・招待状（校区催事、九大学祭）
- ・学生回覧板など

「場」づくり

- ・公共施設：小中学校、公民館、市民センター、九大など
- ・民間施設：カフェ、飲み屋、塾、病院・保育園のホール

「機会」づくり

- ・季節の行事：もちつきお餅が食べられる
- ・運動・スポーツ：運動会→テント立てやリレー選手に若い学生などを
- ・公園ごとに太極拳、ヨガ、ラジオ体操

塩原ならではの！

- ・九大の学生と：サークルや学校の体験、逆に高齢者サロンなどに出張
- ・外国人の方と：外国人の方に国のことを教えてもらう／日本のことを教えてあげる
- ・企業の方と：企業のお祭りと連携
- ・その他：防災訓練

塩原校区まちづくりビジョン

- ・こどもの成長をみんなで見守るまち
- ・高齢者もみんなが生き活きと活躍するまち
- ・学生も外国人もみんな一緒に楽しむまち

参加者に考えていただいたフレーズをもとに、「まちづくりビジョン」について地域で話し合いが行われました。その結果、ワークショップでの意見をうまく反映し、これからの地域活動を具体的にイメージできるということで、左記のまちづくりビジョンが決定されました。

●個人ワーク：塩原校区の「校区ビジョン」を考える

参加者のフレーズ集からは、以下のようなキーワードが得られました。

「自然」：那珂川、清流、緑、うまい空気、青い空、自然の風
 「気持ち」：優しい、明るい、笑い（笑顔）、陽気、元気が出る、楽しく暮らせる
 「行動」：挨拶、出会い、つなぐ、見守る、声掛け、成長しあえる、助け合える

取り組みの背景と概要

堤地区自治協議会 まちづくりの4つの視点

1. 地域で支え合うぬくもりのあるまち
2. 自然環境を大切にすまちなち
3. 安全で安心して暮らせるまち
4. 地域と学校が共生するまち

高齢者に関する目標をつくらう！

堤地区のビジョン

健康寿命の延伸
堤地区健康長寿へのチャレンジ

第1回 堤地区高齢者地域支援会議

- 日時：平成 27 年 8 月 29 日（土）
- ・ 堤地区の高齢化の現状と予測
 - ・ 意見交換「生き生きとした老後のために必要なこと」

第2回 堤地区高齢者地域支援会議

- 日時：平成 27 年 10 月 10 日（土）
- ・ グループ討議
 - 「いきいきとした老後のために堤地区に必要なこと」

<グループ討議の結果>

- ①みんなが集まって交流できる場をたくさん作る
- ②運動でもっと健康になる
- ③若い人（ボランティア）を育てる
- ④もっと便利になれば暮らしやすい
- ⑤わからないことや困ったときは身近で相談できる

ワークショップの概要

第3回 堤地区高齢者地域支援会議

- 日時：平成 27 年 12 月 12 日（土）
- 参加者数：39 名
- すぐにでも始められる具体的な活動のアイデアを検討。

第4回 堤地区高齢者地域支援会議

- 日時：平成 28 年 2 月 13 日（土）
- 参加者数：38 名

第1回ワークショップ

①みんなが集まって交流できる場をたくさん作る

第1グループ

- ・ 身近な場所で食事ができる活動を行う。

第2グループ

- ・ 元気な高齢者のための集まりを行う。

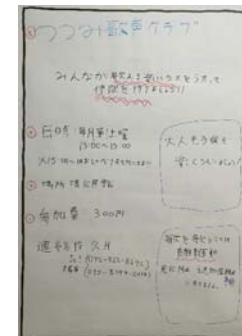
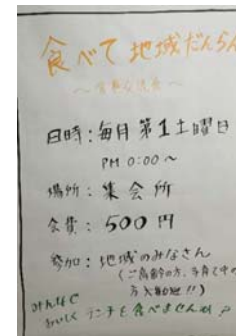
第2回ワークショップ

第1グループ

- 「食べて地域だんらん」の開催
- ・ 最小限の労力で。
 - ・ 月に1回、集会所でスタート。

第2グループ

- 「つつみ歌声クラブ」の開催
- ・ 歌を接点に楽しく明るい仲間づくり。
 - ・ 上手になるよりも声をそろえて歌う（有酸素運動）。
 - ・ 先生、楽器、音響などが必要。



②運動でもっと健康になる

第1グループ

- ・ 近くの公園や小学校の校庭で毎日やれることとして、健康寿命を少しでも伸ばすために、ラジオ体操やストレッチ運動。

第2グループ

- ・ 週に1回公園や一本松川で、自分や仲間、近所の方とウォーキングとグラウンドゴルフを楽しく集まって健康づくりとして実施する。

第1グループ

- 健康寿命を伸ばす「ラジオ体操をやるう!!」
- ・ つつみカフェに合わせて実施。
 - ・ 各サロンでも取り入れるように呼びかけ。
 - ・ ストレッチ運動の時は指導者。

第2グループ

- グラウンドゴルフとウォーキングで健康作り!
- ・ 平日の午前中がグラウンドゴルフ、毎週土曜日がウォーキング。
 - ・ 毎月の「歩こう会」にも参加。



③若い人（ボランティア）を育てる

第1グループ

- 「街を創ろう！」イベントの開催
- ・ ベンチを作って、公園に置くようなDIYワークショップを開催。
 - ・ 毎回、焼肉パーティーなども開催。

第2グループ

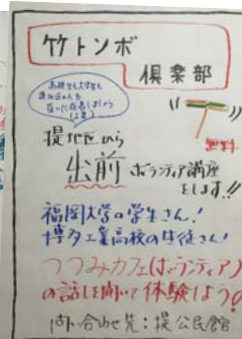
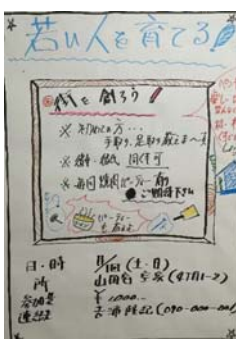
- 「竹トンボ倶楽部」の創設
- ・ 若い人や年配の方がお互いに尋ね合う。
 - ・ 福大、博多工高へボランティア出前講座。
 - ・ 堤カフェでのボランティアの体験。

第1グループ

- 「街を創ろう！」イベントの開催
- ・ ベンチを作って、公園に置くようなDIYワークショップを開催。
 - ・ 毎回、焼肉パーティーなども開催。

第2グループ

- 「竹トンボ倶楽部」の創設
- ・ 若い人や年配の方がお互いに尋ね合う。
 - ・ 福大、博多工高へボランティア出前講座。
 - ・ 堤カフェでのボランティアの体験。



取り組みの概要

- ・小田部校区は、次年度に地域のまちづくりの目指すべき方向性を取りまとめる予定
- ・そこで、小田部校区における各種統計データの整理、校区住民へのヒアリング等を実施し、次年度の取り組みに向けた基礎的資料等のとりまとめ及び企画案の提案を行った。

取り組み内容

校区の変遷等の整理

- ・古代から現代に至るまでの小田部の歴史の整理
- ・現在の小田部校区の人口等の状況まとめ
- ・航空写真等を活用した変遷の整理

小田部だいこんに関する資料の整理

- ・小田部校区で元来生産されていた「小田部だいこん」に関する各種情報の整理

校区住民等へのヒアリング

- ・小田部の歴史や小田部だいこんに精通した校区の住民へのヒアリングを実施
- ・統計資料等を補完する情報として整理

(ヒアリング)

- ◆校区に長年お住まいのお年寄りの方
- ◆校区内の農園経営者
- ◆校区内で畑を所有し、だいこん生産に精通した方
- ◆小学校校長

ビジョンづくりに向けた企画案の提案

○ヒアリングの内容と校区変遷のまとめ



○小田部だいこん



今津校区まちづくりビジョン ～今津の子どもが増える環境づくり～

今津校区自治協議会・すみよい今津をつくる会（平成28年3月）

取り組みの背景

福岡市の人口は増加、でも今津は減少
干潟や松原、元寇防壁や寺社、福祉重視の人情味あるコミュニティ、
手ごろな地価、地区計画、魅力ある資源に恵まれているのに…

取り組みの概要

「今津の子どもが増える環境づくり」のために、何に取り組むのか？

今津校区の住民で…

まちづくりフォーラム2015
～今津の子どもが増える環境づくり～



今津で働く方々・関心ある方々も交えて…

いまづ まちづくりフォーラム

第1回～プロジェクトづくり～

平成27年12月19日（土）14:00～
参加者：85人（うち校区外参加者37人）

第2回～プロジェクトの具体化～

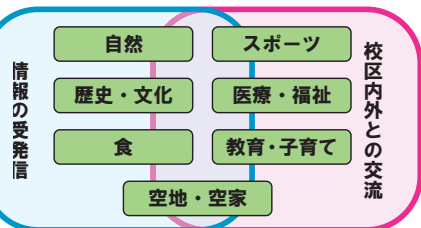
平成28年2月6日（土）14:00～
参加者：64人（うち校区外参加者26人）

今津校区のまちづくりビジョン

まちづくりの目標

子どもが増える環境づくり

まちづくりの方針



今津の資源を活用する

今津固有の恵まれた「自然」「歴史・文化」「食」「スポーツ」「教育・子育て」「医療・福祉」「空家・空地」などの資源や施設を活かす

アピールする（情報の受発信）

自然や歴史・文化などの魅力をはじめ、今津の住みやすさを伝える情報を集め、校区内外へアピールする

校区内外と交流する

校区内のさまざまな施設や団体、九州大学をはじめとする校区外の団体、市民と交流し、連携・協力してまちづくりを進める

今津の子どもが増える環境づくりのために ～フォーラムで話し合われたプロジェクトのアイデア～

自然と歴史・文化を活用する

- 地域の人に今津の自然を知ってもらい、住んでもらうために…
改めて今津の価値を知ろうプロジェクト
- 大原山の桜 花見ができるように…
大原山 さくら木 山道の整備プロジェクト
- 自然を守りながら利用する（食、観光、旅、マリンスポーツ等）ために…
自然の大切（生きる）プロジェクト

食を活用する

- 高齢者対策と居住者誘致のために…
スーパー出店プロジェクト
- 既存資源の活用し、活性化、充実のために…
道の駅プロジェクト

スポーツを活用する

- パラリンピックの誘致と生涯スポーツで健康寿命を延ばすために…
スポーツ合宿地誘致プロジェクト
- 地域活性化のために…
運動公園の活用プロジェクト

医療・福祉を活用する

- 高齢者の支援のために…
今津校区の高齢者支援のあり方プロジェクト

教育・子育てを活用する

- 安定した教育活動の充実のために…
教育100年計画プロジェクト
- 特色ある教育で、魅力ある地域づくりのために…
教育環境向上プロジェクト
- 子育て・教育の具体化を図るために…
今津子育て・教育プロジェクト

空地・空家を活用する

- どんどん家を建ててもらうために…
子育て世代特区づくりプロジェクト
- 今津の活性化と人口増加（子ども）のために…
今津のフランディング 都市（町）計画モデル住宅プロジェクト

今後の展開 ～部会とプロジェクト（案）～

自然と歴史・文化部会

- 自然と歴史を知る**
・ツアー・勉強会 等
- 自然と歴史・文化を伝える**
・元寇松原、今津人形芝居
・今津干潟、三角池
・カキの管理・養殖 等

食とスポーツ部会

- 食とスポーツによる健康づくり**
今津運動公園の活用策
・校区の生涯スポーツの場として
・障がい者スポーツの場として
・校区イベントの場として
・農水産物の販売の場として 等

教育・子育て部会

- 教育・子育ての環境づくり**
・地域・小中学校・大学・施設との交流（話し合いの場）
・地域・小中学校・大学・施設との連携（学びと遊びの場） 等

移住部会

- 住まいの環境づくり**
空家・空地の活用
・実態と意向把握・リスト化
・受け入れストックの条件整理
・受け入れ体制づくり 等

情報発信部会

- 情報収集と発信の窓口づくり**
・情報発信委員会の設置
・ホームページ開設 等


 地域デザインの学校

地域デザインの学校

事業概要

地域デザインの学校とは？

地域の「支えあいのかたち」を豊かにするプロジェクト

- ①地域に馴染みの薄かった人と、既に活動している人が学びあう場を通じて、
- ②「やりたいこと」や「興味あること」から地域での活動を生み出し、お互いにつながりながら
- ③「支えあいのかたち」を豊かにするプロジェクト

実施校区で、こんな取り組みをします

①地域のことをヒアリング

地域のことを調べます。
自治協の方や事業者の方にヒアリングします。

②人集め・講座の実施

地域に関わりの薄い方々を掘り起こし、集まった方々を対象に講座を実施します。
(掘り起こし・人集め・講座はNPOが行います。)

③活動の支援

何かやりたいと思っている受講者と一緒に地域と連携して行われる活動をつくり、支援します。

こんな方々が受講しています！

サラリーマン、自営業の方、
学生、子育て中のお母さん、
福祉関係者、自治協議会の方、
定年後の方…などなど。

20代～80代まで、
いろいろな方が受講されています！
とくに30～40代の参加多数！

こんな活動やつながりが
生まれています！

- 自治会・町内会に加入
- おやじの会に加入
- ・講座がきっかけで活動に参加・加入



これまでの実施校区

- 第1期：東区千早校区 (22名参加)
- 第2期：南区西長住校区 (21名参加)
- 第3期：中央区(旧)簗子校区 (21名参加)
- 第4期：西区西都地区 (20名参加)

地域活動に協力

・受講生が地域イベントをインターネット上でPR



地域デザインの学校 第1期 千早(東区)

2014/2015	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1期千早	フェーズ1: 事前調査・掘起こしと募集			フェーズ2: 講座の実施					フェーズ3: アフターフォロー	

【実施概要】

1. 事前調査&掘起こし：2014.6～8

2. 講座の実施：2014.9～2015.1

①9.21 ②10.26 ③11.3

④11.30 ⑤12.20 ⑥1.11

会場：千早小学校/千早公民館

3. アフターフォロー：2015.2～

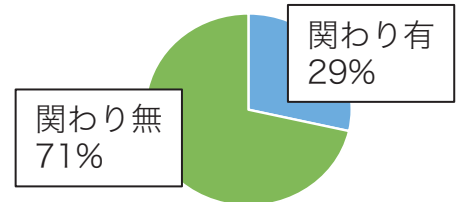
□受講者数：22名 □卒業生数：17名



【成果】

【1】参加者の状況

- ・約7割が地域活動に関わりの無い層から参加
- ・千早校区を中心に近隣6校区から参加



【2】卒業後の活動の状況

- ・卒業生の9割（受講者の8割）が地域での活動に参加



【3】活動を通じて生まれた波及効果（2例を紹介）

（自主企画による活動）

□ちはやとくらす

（住民主導の地域情報紙の作成）
千早小学校（全児童に配布）、
千早自治協議会（町内で回覧）、
おやじの会（イベント協力）、
地域の事業者（カフェ）
その他、既存の地域活動と
幅広く連携して、活動を展開

□東市民センター

welcomeプロジェクト
東市民センター開設に伴い、
住民アンケートやインタビュー
を実施（ちはやとくらすと協働）



地域デザインの学校 第2期 西長住(南区)

2015/2016	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第2期西長住	フェーズ1: 事前調査・掘り起こしと募集			フェーズ2: 講座の実施			フェーズ3: アフターフォロー			

【実施概要】

1. 事前調査&掘り起こし：2015.6～8

2. 講座の実施：2015.8～2015.11

① 8.30 ② 9.12 ③ 9.27

④ 10.11 ⑤ 10.24 ⑥ 11.7

会場：西長住小学校/西長住公民館

鹿助荘（特別養護老人ホーム）

3. アフターフォロー：2015.11～

□受講者数：21名 □卒業者数：16名



【成果】

【1】参加者の状況

- ・約5割が地域活動に関わりの無い層から参加
- ・西長住校区を中心に近隣9校区から参加

関わり無
53%

関わり有
47%

【2】卒業後の活動の状況

- ・卒業者の全員（受講者の約8割）が地域での活動に参加

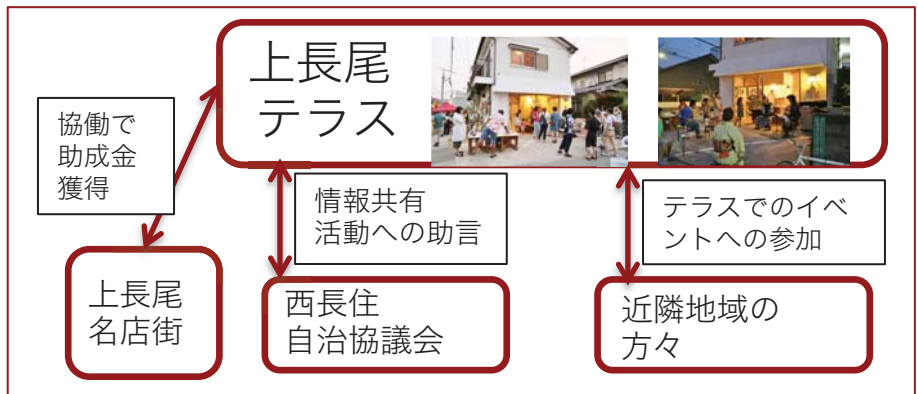


【3】活動を通じて生まれた波及効果（2例を紹介）

□上長尾テラス

（名店街の空き店舗を
コミュニティスペース化）

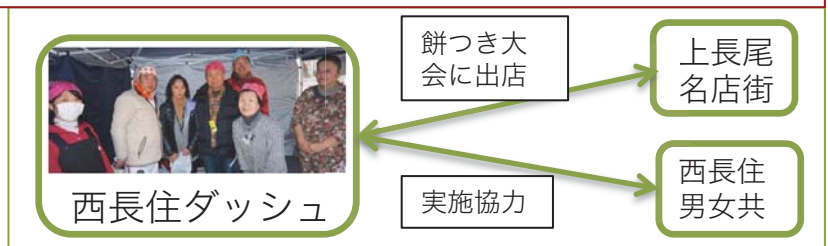
- ・2016.5に賃貸契約
- ・2016.7にスタート
- ・上長尾名店街と協働し
助成金を申請・獲得
- ・西長住自治協議会からも
事業への前向きな支援
- ・近隣地域の方々が、
テラスでのイベントに参加



□西長住ダッシュ

（地域の郷土料理を発掘・発信）

- ・餅つき大会（上長尾名店街主催）
に出店。来場者多数。
- ・実施は男女共同参画委員会と協働



地域デザインの学校 第3期 箕子(中央区)

2015/2016	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第3期箕子				フェーズ1:事前調査・掘り起こしと募集			フェーズ2:講座の実施			フェーズ3 アフターフォロー

【実施概要】

1.事前調査&掘り起こし：2015.9～11

2.講座の実施：2015.12～2016.2

① 12.5 ② 12.20 ③ 1.9

④ 1.24 ⑤ 2.7 ⑥ 2.20

会場：旧箕子小学校/箕子公民館

3.アフターフォロー：2016.2～



□受講者数：21名 □卒業者数：20名

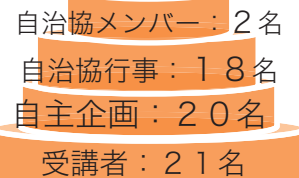
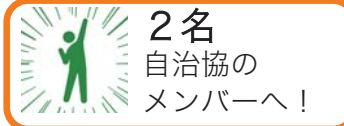
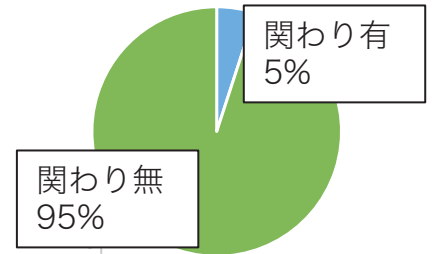
【成果】

【1】参加者の状況

- ・95%が地域活動に関わりの無い層から参加
- ・箕子校区を中心に近隣3校区から参加

【2】卒業後の活動の状況

- ・卒業者の全員（受講者の95%）が地域での活動に参加



【3】活動を通じて生まれた波及効果（2例を紹介）

□箕子図鑑

- （地域の昔の姿や思い出を古くからの住人に取材・発信）
- ・最近箕子に引っ越してきた受講生が企画
- ・公民館や中央区地域支援課から企画趣旨が評価され、2016年度に公民館事業として協働して実施
- ・古くからの住民は公民館長が紹介
- ・公民館主催の校区文化祭で取材の成果を発表予定



□自治協議会のメンバーへ

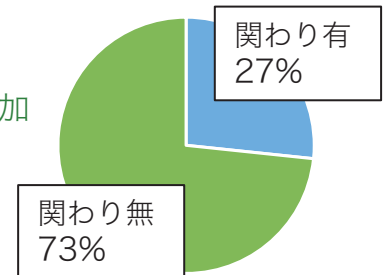
- ・受講生のうち2名（30代男性/50代女性）が箕子自治協議会に加入
- ・地域活動の広報を担当（フェイスブックページの更新等）
- ・地域デザインの学校卒業生と自治協の連絡係も担当（自治協行事への参加協力のPR）

地域デザインの学校 第1～3期 まとめ

事業の成果

【1】参加者の状況（地域に関わりのない層から募る）

- 73% の受講者が、既存の地域活動への関わりが無い層から参加
- 30～40代中心：20代～80代までの多世代が集う
- 属性が多様：サラリーマン、自営業者、主婦、福祉関係者、地域の事業者、自治協関係者、定年後の方、学生…等



【2】卒業後の活動の状況（活動する人をつくる）

- ・ 卒業者の**9割**（受講者の**8割**）が地域での活動に参画



【3】受講生の活動を通じて地域に波及効果が生まれた例

- ・ 公民館と協働し、公民館事業の一環として企画を展開
- ・ 自治協議会、小学校、おやじの会等、地域の既存の組織と連携した活動を展開
- ・ 地域の商工会（名店街）と協働して、コミュニティスペース開発運営の企画が実現
- ・ 地域に関わりなかった受講生が自治協や町内会の役員等となり、活動を展開

受講生/自治協関係者/地域支援課からの声

- 「人生観が変わりました。他の地域でもやってください。」（受講生：40代男性：箕子図書館で活動）
- 「出会いのきっかけこそが宝物です！」（受講生：30代男性：講座をきっかけに自治協メンバーになり広報部で活動）
- 「とても楽しめた。今まで持っていた地域活動への恐怖心が和らいだ」（受講生：30代女性：自治協行事へ参加）
- 「受講生には初めてお会いする方が多い。こうした若い世代の担い手づくりの一環として期待している。」（千早校区自治協議会会長）
- 「アイデアや行動力に溢れる受講生を地域につなげたいという思いから、公民館長とも意見が一致し、一つの企画を公民館事業へとつなげた。受講生側には課題もあるが、ワクワクする企画がたくさんあるので、今後もうまく地域とつなげていきたい。」（中央区地域支援課係長）

汎用化に向けて：マニュアル&研修プログラム

- ・ 「地域デザインの学校」の講座運営に際して、必要となるスタッフは以下の3役
 - ①講師役：講座全体の進行・コーディネートを担当
 - ②テーブルスタッフ：学習支援者として、テーブルファシリテーション等を担当
 - ③事務局スタッフ：会場説明等のロジスティクスを担当
- ・ 上記3役を、本事業ではNPO法人ドネルモの関係者で担ったが、汎用化を意図して、①～③それぞれに、新規担当者向けのマニュアルを、事業と並行して開発。
- ・ ①講師役向けには、講座各回の進行マニュアルと、進め方のプロットを準備。
各講座の進行手順はもちろん、受講生への効果的な質問の投げかけ方などを記載。
- ・ ②テーブルスタッフ向けには、特別な研修プログラムを準備し、
本事業でも、学生インターンやドネルモ関係者を対象に研修を実施している。
- ・ ③事務局スタッフ向けには、準備物等のリストや会場検討時のチェックリスト等のツールを開発。

■ 平成 28 年度の主な事業等

魅力・絆づくり

○ 共創自治協議会事業【拡充】

従来の「活力あるまちづくり支援事業補助金」について、自治協議会が行う地域住民の交流の場づくり等の絆づくりなど共創の取組みを進めるとともに、地域役員等の担い手不足解消に向けた支援を行うことを目的とする。

※平成28年度拡充内容

自治協議会制度発足から10年を経て、「地域のまち・絆づくり検討委員会」からの提言も踏まえ、地域のまちづくりを自治の確立の段階から共に創る「共創」の段階へ進め、地域の未来を様々な主体と共に創る取組みを推進するもの。

(1) 「事業費」の増額

地域カフェなどの絆づくりや校区の特性に応じた取組みを推進するため、事業費を増額。

※人口区分に応じて8～12万円を増額

(2) 「運営費」(活動費)の増額

自治協議会役員の校区内での連絡調整等に係る費用として、活動費分の金額を増額。

※自治協議会会長の活動費の平均額が約5万円(H26自治協議会アンケート)であることから、会長を補佐する役員の活動費も含め、人口区分に応じて8～12万円を増額

○ 校区ビジョン策定支援【新規】

住んでいる地域の現状と将来像を校区住民が共有し、地域の目標や特性を生かした地域による地域のためのまちづくりの推進を図るとともに、外からの視点も活かして将来像を語り合う過程を経ることで、住んでいる地域へのさらなる愛着と誇りの醸成や、新たな地域活動の担い手の発掘・育成を図る。

担い手づくり

○ “ふくおか”地域の絆応援団事業【新規】

地域活動を応援している企業や商店街等を登録・公表して地域との連携を進めるとともに、特に貢献度の高い企業・商店街等について感謝状を贈呈する。

また、「応援団」の活動を推進する組織を設置し、フォーラムやセミナーを開催するほか、交流の場を設けるなど企業間の情報交換や取組みの推進を図る。

○ 学生がデザインする公民館事業【新規】

地域の一員である学生に地域に地域での交流を促すとともに公民館の「つなぐ」機能の強化を図るため、学生と公民館が地域に向けた事業の企画・実施をし、その成果を発表するとともに、これから連携を目指す公民館、学校及び学生のための冊子を作成し、配布する。

○ 地域の担い手パワーアップ事業【リニューアル】

平成27年度まで実施していた「地域人材発掘・育成支援事業」、「自治会コミュニティ応援事業」「みんなの公民館づくり(地域・公民館の情報発信の強化)」「ふるさとフォトミュージアム事業」「みんなの公民館づくり(住民の活動の場づくり)」を以下の5つのプログラムにリニューアルし、そのうち4つについては、区が選択できるカフェテリア方式とすることで、地域の実情に応じた効果的な事業とする。

(1) 必須事業

公民館の地域力応援プログラム

公民館職員の地域コミュニティ支援能力を向上させるための講座等を実施

(2) 選択事業

ア 地域の担い手スタートアッププログラム

町内会長に初めて就任される方や、地域活動に初めて参加される方等を対象に、新たな地域の担い手として、楽しんで活動を続けていただくための講座の実施や交流機会の提供等を行う。

イ 地域の担い手ネクストプログラム

町内会や各種団体の役員などを対象に、地域課題の解決や充実した地域行事の企画・立案などが可能な地域の担い手を養成するための講座等を実施する。

ウ ICT担い手づくりプログラム

地域で「公民館ブログ」や「自治協ブログ」などでICTを活用した地域情報を収集・発信する人材を育成するための技術講習等を実施する。

エ きっかけづくりプログラム

地域住民に気軽に公民館に来館いただき、新たな集まりや交流を生むため、公民館ロビーなどを活用したイベントや環境づくりを実施する。

○ 地域デザインの学校(平成25年度共働事業提案制度採択事業)【継続】

「地域活動の担い手」を養成することを目的に、地域活動にすでに従事している人々や地域活動への意欲や関心を持つ人々が、同じ問題意識を共有し、お互いに結びつきながら、活動のノウハウ(地域活動のやり方・答えの出し方)を学ぶための場づくりをNPOと共働で取り組む。

〈事業内容〉

対象校区を2～3校区選定し、すでに地域活動に従事している人や地域活動への意欲や関心を持つ人を対象に、講座やシンポジウムなどを通して、同じ問題意識を共有し地域活動のノウハウを学べる場を提供する。

また、平成26・27年度に受講した受講生との交流の場の創設に取り組む。